長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2021 NOVEMBER VOL.396

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



2021年11月19日から開催された第7回日本NP学会学術集会に、ヘリドッグ太くんも応援しに行ってきました！
長崎の新たなランドマーク"である"出島メッセ"も探検して楽しんだようです！！

診療科紹介 update
Vol.20 精神科

TOPICS

- 10月1日、当院が感染症指定医療機関に指定されました。
- 第29回長崎救急医学会を終えて
- 2022年度採用研修医マッチング ― 見学者数、受験者数V字回復、6年連続フルマッチ ―
- 院内ワークショップ報告
- 2次離島の皆さんと考えるがん教育 ～ 地域・家庭・学校が一体となった健康教室の開催（がん教育）～

看護部だより Vol.36

医療相談支援センターからのお知らせ

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Update Vol.20

精神科

はじめに

日本国内において精神疾患で通院・入院をしている患者さんの数は30人に1人、生涯を通じて5人に1人の方が精神疾患にかかるとも言われており、精神疾患は非常に身近な誰でもかかりうる病気であることが分かります。

当院精神科にはスタッフ2名とレジデント1名が在籍しており、主に身体の病気（骨折や肺炎、がんなど）にかかられた精神疾患をお持ちの方の治療に日々奔走しております。

外来診療

精神障害全般の診断・治療を行っていますが、以下のような症状の患者さんには、専門治療を行っている病院・施設での療養をお勧めしております。

- 認知症に関連した治療を希望する場合（ただし、認知症の診断目的での受診は可能）。
- 不登校、引きこもり、摂食障害のような児童・思春期特有の問題がある場合。
- 統合失調症の急性期や興奮が著しい、自傷行為が著しい患者さんなど当院では対応が困難な病状の場合。
- アルコールの問題（アルコール依存症）がある場合。
- 摂食障害（拒食症など）の専門治療を希望する場合

入院診療

当科の特色として、身体疾患と精神疾患を合併されている方の治療を行う**“リエゾンセンター”**として病棟の運営を行っています。（入院対象となる身体疾患は原則として急性期もしくは慢性疾患の急性増悪などに限られます。）長崎県内でこのような専門治療を行う施設は他になく、離島はもとより隣接する佐賀県からも数多くの患者さんを受け入れています。病棟スタッフは勿論、他診療科の先生方や精神保健福祉士、臨床心理士と協働して患者さんの治療や支援にあたっています。

図1は昨年1年間で当科に入院された患者さんの精神科疾患別内訳になります。それぞれの項目の主なものは、F0では認知症やせん妄、F1ではアルコールや薬剤に関連した精神疾患、F2では統合失調症、F3ではうつ病や躁うつ病などがあります。

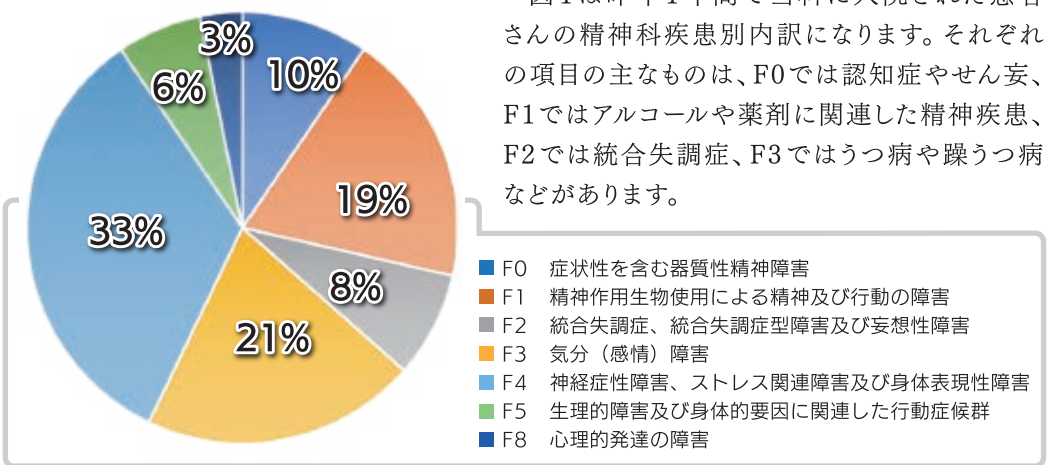


図1　長崎医療センター精神病床入院患者の疾病別内訳（2020年）

図2は、厚生労働省のホームページに掲載されている全国の精神科病棟における精神科疾患別内訳です。特に長期入院が問題となりやすい統合失調症の患者さんが全国的には半数以上を占めているのに対して、身体合併症の急性期治療を担っている当科では3分の1程度となっています。一方で認知症や知的障害の方のうち精神科的な治療や支援が必要な方の受け入れを行っている為、これらの疾患の割合は高くなっています。

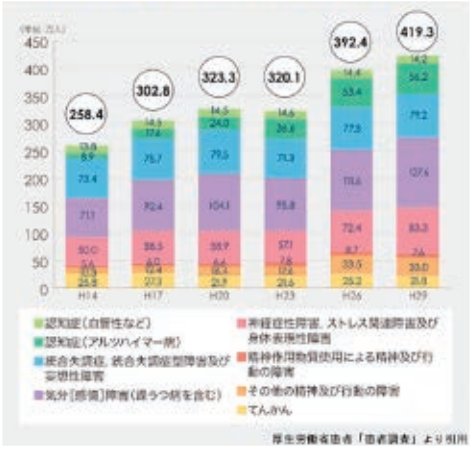


図2　精神疾患を有する総患者数の推移

緩和ケア

緩和ケア科医師、専門看護師、薬剤師、栄養士などで構成される緩和ケアチームの一員として、病気（主にがん）に伴う精神症状の治療を行っています。さらに多職種と連携し、精神面のみならず身体面、社会面などの全人的苦痛の緩和を目指し、活動しています。



電気けいれん療法

また、主に精神科病院入院中のうつ病や統合失調症の患者さんを対象に、修正型電気けいれん療法（m-ECT）を行っています。麻酔科の先生方と連携して、より安全な環境下で電気けいれん療法を行っています。電気けいれん療法の適応となる病態では、誤嚥性肺炎や低栄養状態などを合併している事が少なくないため、必要に応じて各診療科の先生方にも協力を得ながら治療を進めています。


m-ECTに使用されるパルス派治療器／サイマトロン（光電メディカルHPより）

当院に患者さんの紹介をされる医療機関は以下の点にご留意いただき、県内唯一である精神科身体合併症治療専門病床の効率運営にご協力お願いいたします。

1．当科への入院適応は精神疾患に合併した急性期の身体疾患に入院治療の必要性がある場合です（身体疾患の症状が軽度もしくは慢性期で、精神症状の治療が主な目的である場合は入院適応とはなりません）。原則として精神疾患のみを対象とした転入院は受け付けていませんが、m-ECT 導入目的の入院については病床の都合を考慮し、受け入れを検討します。
2．入院治療の依頼はまず当該身体科医師にご相談ください。当該身体科医師により、入院治療が妥当な身体症状か判断いたします。m-ECT 目的の入院依頼は当科に直接ご相談ください。
3．当該身体科医師への相談の後は、その日の精神科新患担当医にご連絡ください。精神症状に関する情報を伝えていただき、精神科病床への入院が妥当かベッドの空床状況などを踏まえてご相談いたします。
4．当院での身体治療が終了した時点で紹介元の医療機関への転院となります。

10月1日、当院が感染症指定医療機関に指定されました。

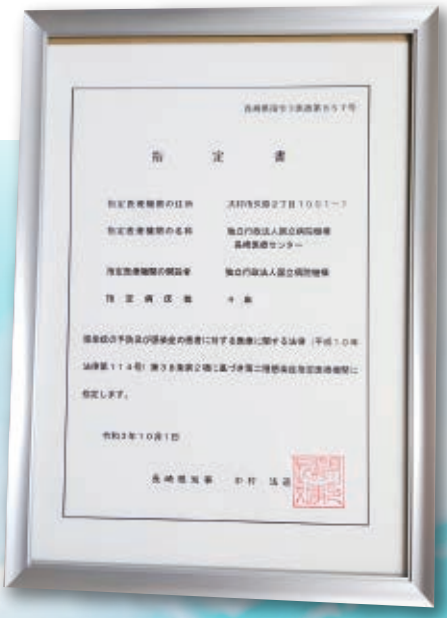
副院長　八橋 弘

10月1日、長崎県から当院を県央医療圏（諫早、大村両市、東彼3町）の第二種感染症指定医療機関に正式に指定する旨、通達がありました。其れに伴い今まで県央医療圏の第二種感染症指定医療機関であった大村市民病院の指定は9月30日で解除されました。長崎県は、今までに県内八つの2次医療圏ごとに重症急性呼吸器症候群（SARS）などに対応できる第二種感染症指定医療機関を原則1カ所ずつ指定してきました。国の感染症病床配置基準によると人口30万人未満の医療圏に4床必要とされています。

感染症指定医療機関の内定に伴い、国の臨時交付金を活用して、院内の７Ｂ病棟の一部、４床を感染症病床として使用できるように整備をおこないました。当院では離島からの感染症の重症者搬送も想定され、その任務が期待されています。また長崎県では県全体の感染症対策強化を目的として諫早総合病院も年度内に第二種感染症指定医療機関に指定することが決まっています。県央地域では当院の４床と諫早総合病院の４床を加えた計８床が感染症に対応するようになります。

長崎県では新型コロナの専用病床として、指定医療機関の感染症病床を含め県全体で最大549床が確保され、県央地域でも94床確保されています。新型コロナ感染患者の受け入れに関して、当院では昨年の８月からこの夏の第五波の収束までの期間、重症と中等症の患者を130名以上受け入れ、院内の多くのスタッフが新型コロナ感染患者の診断と治療とケアに対応してきました。また院内に留まらず院外においても、昨年の長崎クルーズ船での対応、県央地域以外の長崎市や佐世保市での院内クラスター対応にも多くの長崎医療センター DMAT隊員を派遣することで、早期の感染収束に向けて貢献してきました。

新型コロナウイルス感染症対策については、長崎県民が安心してこの地で暮らすことができるように、当院は感染対策のハード面とソフト面ともに充実させることにより、感染症指定医療機関としての使命を果たしてゆきたいと考えています。





TOPICS

第29回長崎救急医学会を終えて

救急科医師　中原 知之

全国的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、人々の流れが制限される中、令和3年9月4日に第29回長崎救急医学会が開催されました。感染対策を行った上での現地開催も模索されましたが、発表動画のWeb配信（YouTube）での開催となりました。

人との交流が制限され、学術的な交流が生まれる場が少なくなるというデメリットもありましたが、時間的な制約なく、様々な発表を聞ける思わぬメリットもありました。これは新型コロナウイルスがこの世に出現しなければありえなかった方式だと思います。

今学会のテーマとしては「新型コロナウイルス感染症との闘いの記録～それぞれの立場からの報告」とあるように病院、保健所、消防など様々な視点からの新型コロナウイルスに対する対応や苦労がつづられていました。それぞれの立場でこれまでに経験したことがないことに対して立ち向かうことの大変さに加え、対応するための工夫も示されており、このコロナ禍での閉塞感を打破するための希望が感じられました。

今回のWeb開催も新型コロナウイルスの存在によって新たに生み出された方式ですが、閉塞感に苛まれるだけでなく、それぞれが新しい方法を模索し、自由を獲得していくことが新型コロナウイルスと共存していく上で我々が出来ることではないかと思いました。

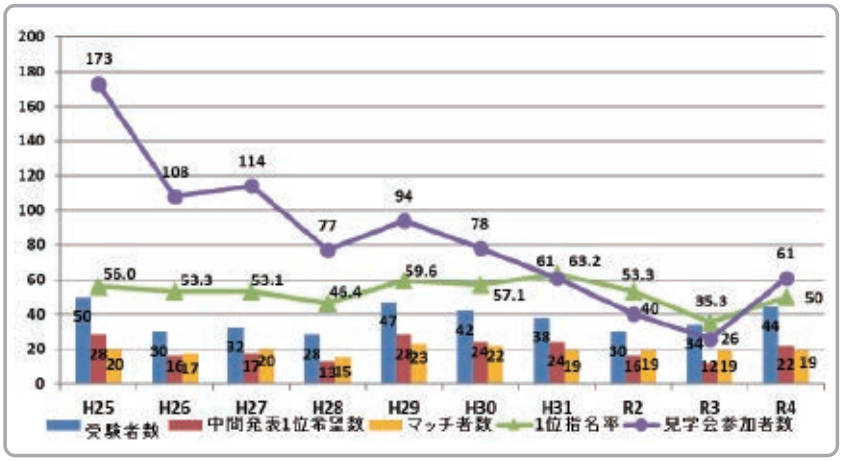
TOPICS

2022年度採用研修医マッチング　― 見学者数、受験者数V字回復、6年連続フルマッチ ―

研修管理委員長　長岡 進矢

今年のマッチングの鍵となるのは、昨年から続くコロナによる行動制限の中、いかに当院の臨床研修をアピールできるかでした。まず学生たちに直接現場を見てもらうことが重要と考え、時間を短縮した病院見学を春から継続的に実施しました。また病院HPのトップページに臨床研修の紹介を移動し、内容も刷新しました。6月に2回のWEB説明会を開催し多くの学生さんに参加いただきました。これらの対策が功を奏したのか、減少を続けていた病院見学者数が3年前のレベルに回復しました。採用面接はWEB化とし、受験者数は4年ぶりに40名を超え、中間発表の1位指名も3年ぶりに20名を超えました。最終的に6年連続のフルマッチ（定員19名）を達成することができました。来年度採用予定研修医は、これに自治医大の4名が加わり23名となります。

内訳は長崎大10、九州大4、久留米大1、山口大1、昭和大1、川崎医科2、自治医大4、男性17、女性6です。志望科は総合診療科が多いですが、その他幅広い診療科の志望があるのが今年の特徴のようです。コロナの流行をきっかけに研修医のリクルート、マッチングも大きく変化しました。取り巻く状況の変化に対応しながら、今後も選ばれる研修病院であり続けたいと思います。皆さまご協力よろしくお願いします。



TOPICS

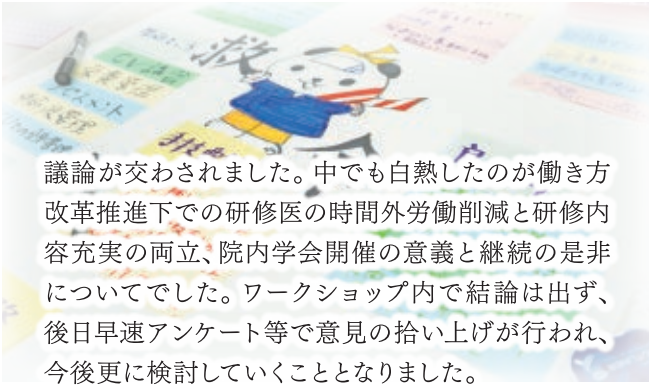
院内ワークショップ報告

2年次研修医　前原 洋順

去る9月25日、当院あかしやホールにて院内ワークショップを行いました。

例年、嬉野合同合宿という形で開催されていた当会も、昨年度はコロナの影響で中止となっておりましたが、今年度は院内ワークショップという形で開催が実現しました。今年のテーマは「プログラムについて」であり、コロナ禍での研修プログラムの在り方を検討する会となりました。

グループ内で挙がった各診療科での研修の現状、今後改善が期待される点に加え、全体ディスカッションでは研修に関する様々な意見が挙がり、熱い議論が交わされました。中でも白熱したのが働き方改革推進下での研修医の時間外労働削減と研修内容充実の両立、院内学会開催の意義と継続の是非についてでした。ワークショップ内で結論は出ず、後日早速アンケート等で意見の拾い上げが行われ、今後更に検討していくこととなりました。



研修医自身だけでなく指導医の先生方からも直接多くのご意見を頂き、今後につながる大変有意義な時間となったと思います。ご参加頂いた先生方、運営を支えてくださった教育センターの皆様に心より感謝申し上げます。







TOPICS

2次離島の皆さんと考えるがん教育　～地域・家庭・学校が一体となった健康教室の開催（がん教育）～

医療相談支援センター係長 がん看護専門看護師　田中 圭



この度、長崎県からがん教育総合支援事業における外部講師派遣として2次離島の三島（原島・大島・長島：壱岐市）の皆さんと『地域と共に考える健康教室：（学習発表会＆がん教育）』地域の健康教室を開催しました。参加者は3つの島で小学生2名、保育園児2名、島民40名ほどで、地域・家庭・学校が一体となって運営され、とても温かい会になりました。

3つの島ではコロナ禍で運動会も中止となる中、年に一度のこのイベントは小学生、園児はもちろん島民の皆さんがとても楽しみにされていたイベントです。前半は小学生・園児からの出し物が行われ、子供達の出し物は島民の皆さんのために考えられたとても心温まる内容でした。後半は参加者全員へがん教育（がんの予防・啓発・いのちの大切さ）を行いました。がん教育では小学生や島民の皆さんから積極的な質問もあり、がんについて、いのちについて共に考える貴重な時間になりました。当院は地域がん診療連携拠点病院で、へき地医療拠点病院でもあります。今後も微力ながら離島の皆さんのヘルスケアに貢献できればと考えております。三島小学校をはじめ今回、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。





看護部だより Vol.36

緩和ケア認定看護師教育課程を修了して

7A病棟　岩永 一也



令和2年6月から令和3年2月の9カ月間、久留米大学認定看護師教育センターへ入学し、緩和ケア分野の教育課程を修了しました。

私は、入職してから7A病棟で、がん診断期から治療期、終末期におけるがん患者さんへの看護を実践してきました。手術を受け、元気に退院していく患者さんの姿をみることにやりがいを感じる一方で、再発・転移により入退院を繰り返しながら治療を継続する患者さん、治療法がなくなり今後の意思決定を余儀なくされる患者さん、多くの苦痛を抱える終末期の患者さんなど、様々な病期にいる患者さんとの関わりの中で、何か力になりたいという思いはありましたが、知識・技術が未熟な私にはその場をやり過ごすことしかできませんでした。私が5年目の時に、甲状腺癌の男子高校生を受け持ちました。癌を患うAYA（Adolescent and Young Adult）世代との関わりは初めてであり、何もできずに戸惑っている中、段階を踏みながら患者・両親への意思決定支援を実践している先輩看護師にとても感銘を受けました。この患者さんを通して、がん看護に関する様々な研修に参加し実践してきましたが、私自身の課題が明らかになることが多く、より深く学習する場に身を置きたいと考え、**緩和ケア認定看護師**の資格を取得しようと決意しました。

新型コロナウイルスの影響により、リモートでの学習がメインではありましたが、リモートによる弊害はほとんどなく、専門的な知識や技術を学ぶことができました。何よりも全国から同じ志を持った仲間との日々はとても新鮮で刺激的でした。緩和ケアに関する知識を深めていく中で、これまでの私の看護実践がいかに浅はかで、根拠のないものであったことを思い知らされました。患者さんの苦悩を、**身体面だけではなく全人的苦痛（身体・精神・社会・スピリチュアル）として捉えることで、”キュア”では取り除くことができない苦痛”をケア”の力で緩和できるというマインド**を学ぶことができました。また、臨地実習では認定看護師としての責任の重さを痛感し、今後認定看護師としてやっていけるのかという不安がつきまとう日々でしたが、自分の弱さを認め、自分と向き合う貴重な時間を過ごすことができたと思います。



現在月に数日程度の活動日は、自部署だけでなく外来での説明同席や他病棟からの相談対応など活動をさせていただいています。教育課程での学びを臨床で実践できているかはまだ自信がありませんが、日々の看護実践を内省しながら、患者さんが”その人らしく”過ごすことを支えることができるよう精進していきたいと思います。まだまだ未熟者ではありますが、みなさんと一緒に考え、悩み、相談し合える存在でありたいと思っています。お気軽にお声かけください。よろしくお願いします。

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.396

医療相談支援センターからのお知らせ

今年も年末年始のかかりつけ医に対する地域医療支援を行います

かかりつけ医の先生方への年末年始休診期間の診療支援として、年末年始の休診期間中に急性増悪をきたすと予測される患者さんなどを、あらかじめ地域医療連携室へご紹介いただき、当院で必要な診療体制を準備して救急受診に備えることを行っております。事前に準備することにより、安心かつ円滑な診療ができるものと考えております。

対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、あらかじめ、地域医療連携室に申込またはご相談いただきますようよろしくお願いします。

なお、急患は従来どおり24時間体制で対応いたします。

診療予約申し込み先

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室

TEL：0120－731（ながさきいりょう）－062（おおむらに）
FAX：0120－731（ながさきいりょう）－063（おおむらさ）

申込には診療情報提供書が必要です。先生方が通常お使いの診療情報提供書をご利用ください。
その際、余白に「年末年始」とご記入ください。
内容に応じまして、対応をご連絡いたします。

申込期間：12月23日（木）12:00まで受け付けます。
それ以降は、従来の救急対応となります。

理　念
高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命
長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する